近畿のなかま

No. ８２
2024・3・18
（春闘学習会特集号）

発行人
金融労連近畿地協
事務局長
阿部正巳

蘇った！労働組合の頭脳と魂

金融労連近畿地協 24 春闘学習会

金融労連近畿地協は、３月２日(土)、大阪市の国労会館で 2024 年春闘学習会を開催し、３名のリモート参加を含め、近畿だけでなく、関東・東海・北陸・中国四国・九州沖縄の各地協から計 28 名の仲間が参加しました。

近畿地協では４年ぶりのリアル開催となった今回の学習会。24 春闘を取り巻く情勢の学習と職場の実態交流はもとより、リモート形式では経験できないリアル「交流会」にも 20 名が参加しました。

参加者から「これや！この雰囲気。この『熱くておもろい』集まりを待ってたんや」との感想が出されるほど、脳も魂も充実した一日となりました。

学習会では､昨年のリモートでの学習会に続いて、関西勤労者教育協会の箕作(みつくり)氏を講師に招き「24 春闘が面白い」と題した講演を受けました。

能登半島大地震でハッキリ見えたもの

情勢では、イスラエルの蛮行と言われるガザへの無差別攻撃、３年目に突入したロシアのウクライナ侵略。日本の周りでも「台湾有事」と言われたり、北朝鮮のミサイルなどのように危機をあおって防衛費を倍増。その一方で社会保障費は切り捨てという状況になってきていることを指摘したうえで、１月１日に発生した能登半島大地震でハッキリ見えてきたことを取り上げて話されました。

「2012 年時点では軍事費よりもはるかに多かった防災関係予算が、第二次安倍政権が始まった翌々年の 2014 年ぐらいから軍事費のほうが多くなり、今では防災予算は軍事庫の４分の１まで削減された。その中で能登地震が起こった」と。

「阪神淡路大震災の時期に、例えば大阪では正規の地方自治体の公務員が 13 万人いたのに、それが今７万人にまで削減されている。復興のために必要な建築機器、重機、資材、そういったものも不足している。それなのに大阪では万博が進められようとしている。その万博で世界最大の木造建築と称して自慢している建物に使われている木材を使えば４千戸の仮設住宅が作れる」と。

今の日本の政治は､「何が大切で､優先されるべきものか」という、当たり前の価値観というか判断基準が、目の前の利権やもうけの前に完全に狂ってしまっていることが強調されました。

弱肉強食の政治・社会を正す貴重な 24 春闘

24 春闘は完全に狂っている日本の政治を正すためのステージと位置付け、経済・社会をダメにしてしまった「賃金が上がらない国」づくりからの脱却を図るため、アメリカをはじめ世界的に高揚している労働運動にならって労働組合に保障されている「ストライキ」について生協の労働組合の実例をあげて詳しく解説されました。

皆さんへのお知らせ

その他、組合の日常的な会議の持ち方をどうすれば全員参加型にできるか等々、実践的にも役立つ内容が満載であったため、今回の講演を当日参加した仲間だけで共有することなく、地協事務局では講演内容を文字化して組合員の方々に覧いただけるようにしました。

ご希望の方は､近畿地協までご連絡いただければ、文書ファイルとして添付送信致しますので遠慮なくお申し出ください。

講演後のフリートークでは、

●職場では営業係に「個人カルテ」が導入され、毎月みなし収益はいくらかというようなことをもとに月に２回、「個人カルテ面談」を受けるなどストレスが増大している。

●昨年９月、久しぶりに新しい仲間が組合に加入した。職場でモノ言うことに対する見せしめ的な係替え異動を強行されたことで心の病を発症した非正規労働者が立ち上がって組合に加入してくれた。
異動前の復帰を求めて組合が交渉継続している。

●３万５千円の賃上げを要求した。今日の講演で「会議を４人方式で進める」という手法は勉強になった。昨年抗議した４月賃上げ不遡及問題について、昨年に続いて、あきらめずに闘いたい。

●スト権投票ではいつも 100%近い高率でスト権を確立していたが、実際にストを実行したことはなかった。今回の学習会に参加して、「ストなんて無理」ではなく、これまで我慢し続けてきた怒りを本気でぶつけるつもりでやれば「ストもやれるのでは？」と思えるようになってきた。

●この１年間、組合の組織の強化というのを本格的に考え始めてきた。自分がバトンタッチする単なる後継者探しではなく、長い目で一緒にやっていける人材を見てきた。勤続１～３年目の組合員などの人たちと実際に話してみると、良い人材がたくさんいることに気が付いた。

●利用されていない口座への手数料をいただくという案内を送ったところ、今、窓口とか電話でのお客さんからの問い合わせや苦情が殺到している。「女性の戦力化」と称して、店頭窓口を縮小してきたため、殺到する問い合わせへの対応が困難になっている。

●銀行の初任給の大幅引き上げ競争が激しくなっている。この１～２年で大卒初任給が２～４万円引き上げられ 26 万円程度になる見込みだ。それに比べて非正規への賃上げ回答が小幅にとどまっている。

●銀行職場では、未だに信じられないような支店長によるパワハラ言動に対する労働相談が続いている。「パワハラなど全くありません」という文書回答がウソであり、今春闘できっちり追及したい。

●執行部が言ってなかなか組合員に届かなかったものが、逆に組合員の方から「ぜひこれをなんとか実現してほしい」という思いがまとまることによって、経営者も動かせるということを改めて感じている。

●組合事務所とズームでつながるようになって、子育てをしていて興味はあってもなかなか事務所をのぞくことができないとか、時間が取れない人にとっては、組合が近くに感じられるようになった。

●長年、さんざん労働組合が要求して１円も上がらなかったのに、周りの環境などによって簡単に上がってしまうというのにちょっと複雑な気持ちだ。やっぱり組合の本当の存在意義を見せないといけないと思う。

●人事考課の結果を賞与に差をつけて反映させる制度が導入されて、やはり公平さを欠く好き嫌い人事があったり、評価に対する不満が出て、職員同士の人間関係の中にも悪影響を与えている。

●現在は地域の組合で活動しているので、今日の集まりは、非常に懐かしく、ちょうど同窓会に参加するような気分で仲間の元気な顔を見れて喜んでいる。今日は参加させてもらいました。

●今日の講演で「心理的安全性の確保」という言葉が印象に残った。言いたいことを言う、言いたいことが言えない人を作らない、というようなことにもなると思うので、自分としてもしっかりと少しずつでも経営者に対して発言ができるようにしたい。

●これまで金融機関でストライキは無理やろうと考えていたが、これまでのような「利用者迷惑論」が影をひそめ、ストに対する一定の理解も生まれ始めている。むしろ労働組合の幹部のほうが未だに「会社がつぶれる」とか「お客様に迷惑をかける」ことを口実にしてたたかうことから逃げているのではないかと思う。

等々、まだまだ書ききれないほどいっぱいの意見や報告が出されました。

最後に松島事務局長が閉会のあいさつと団結ガンバローを行い、早い段階での再会を約束して、この日の学習会を終了しました。

（交流会でもさらに盛り上がり）